

会 派 研 修 報 告 書

大崎市議会 政務活動概要報告書

令和5年7月28日 提出

1. 研修概要

会 派 名	大志会
参加者名	相澤久義, 富田文志, 関 武徳
日 時	令和5年7月5日(水), 6日(木), 7日(金)(3日間)
研 修 先	北海道 東川町, 美瑛町, 当別町
出 席 者	(1)東川町 日本語学校校長 小山 正道, 町長 菊地 伸, 議長 能登 暢吉 他 (2)美瑛町 商工観光交流課 成瀬 弘貴, 観光協会 泉 剛生 議会事務局長 今野 聖貴 他 (3)当別町 教育委員会学校教育課参事 川村 秀夫, 副町長 岡部 一宏 議長 高谷 茂, 副議長 稲村 勝俊 他

2. 研修内容

研修項目	研修目的 (1) 東川町 東川町立東川日本語学校について 大崎市で開校準備を進めている公立日本語学校の先進事例を学び, 課題の把握と海外事務所などの連携策について (2) 美瑛町 インバウンド誘致策について コロナ感染症が5類に移行したことによる海外からの観光客の受け入れについて, 特に人気の高い富良野地域美瑛町でのインバウンド推進策について (3) 当別町 小中一貫校・とうべつ学園について 姉妹都市である当別町も時を同じくして開校した義務教育学校の実態を学び, 課題の把握と今後の学校経営について
研修項目	(1)東川町「東川町立東川日本語学校について」 <u>事前質問項目</u> ①旭川周辺には私立の日本語学校があるが, 公立の日本語学校を開設しようとした背景について伺う。 ②語学習熟度とアルバイト先の求人との関係はどうか。十分な語学力がなくても職に就ける程の求人があるのか伺う。(現在国際交流員 10か国 11 人が留学生のサポートを行っている。 ③どのような業種の求人が多いのか伺う。 ④公立学校として学校経営で苦労している事を伺う。 <u>説明と取り組みの概要・日本語学校の授業を視察</u>

※①東川町の海外事務所の運営実態

○海外事務所, 台湾・タイ・中国〔上海〕・韓国・ベトナム

海外協力事務所, インドネシア・モンゴル

○現地職員の配置は留学経験者が常駐(留学生をスクーリング)している。

○事業費は年間数千万円(詳しい金額については答弁無し)。

○国等, 他の海外事務所との連携はどのようになっているのか。(JET プログラム・語学指導や国際交流を行う外国青年招致事業, 約 20 名)

○大崎市では東川町との連携に期待感を持っているが, 現時点ではどのように考えるかとの質問には, 東川町も同様に連携の相乗効果に期待をしたいとの話を受けた。

※②これまでの歩み

○1985 年「写真の町に関する条例」を制定。(写真を通じた国際交流始まる。2014 年 3 月「写真文化首都宣言」行う。(外国人に愛される東川町・松岡市郎町長)

○2009 年「東川町短期日本語・日本文化研修事業」(1 か月～3 か月)開始。
短期学習に取り組み受講者数は現在まで 2,000 名を超えている。

○2014 年 10 月公立日本語学校設置認可申請。(これまでの4年間で 6 か月コース 212 人, 1 年コース 118 人が入学)

○2015 年 10 月東川町立東川日本語学校開学。(学費6か月コース 43 万円, 1 年コース 86 万円, 奨学資金制度 4 万円, 他に 8 千円生活支援費)

※③地域との共生

○北海道のほぼ中央に位置し, 大雪山山系の豊富な伏流水により北海道でも唯一上水道のない町, 多数の留学生が滞在していることから, 地域行事への参加など多文化共生が進められている。

大崎市においても留学生と地域との交流と, 卒業後の交流推進に期待する。

※④日本語学校の推進計画

○「プライムタウンづくり計画 21-Ⅲ」(令和元年 2019 年度から令和 5 年 2023 年度)。まちづくりの基本理念「人と自然がおりなす 輝きの大地 ひがしかわ」

(2)美瑛町「インバウンド誘致策について」

事前質問項目

①アフターコロナの訪日観光客の見込み予測と受け入れ態勢について伺う。

②インバウンド対策は国によっても違うといわれるが, 美瑛町のインバウンドはどこの国, 地域をターゲットにして進められているのか伺う。

③外国人向けの施設が多いと聞いているが, 看板表記や建物のデザインなどは行政主導によるのか民間主導で行われてきたのか伺う。

④コロナ禍で整理された労働力の確保に苦勞すると思われるが見通しについて伺う。

⑤コロナを乗り越えることで、インバウンド中心の依存体質からの脱却を図っていく必要があると思われるが今後の展開について伺う。

説明と取り組みの概要

※①「ブラウマン」の空庭

風景を美しいと感じた観光客に QR コード決済を利用して感動チップの仕組みを作る・・・環境や景観保全の資金に充てる。

※②看板設置等の費用を「クラウドファンディング」事業を活用。事前のプレスリリースやニュースリリースにより目標 100 万円、成果 300 万円以上。

※③観光客年間 160 万人、宿泊 19 万人(外国人 1 万人、中国中心)

スマホ決済、多言語メニュー(翻訳)や多言語 POP, 多言語看板作成など。

観光客数のわりに宿泊数が少なく、通過地点の性格が強い。今後、町の温泉地に誘導する施策の推進が重要と伺う。

(3)当別町「小中一貫校・とうべつ学園について」

事前質問項目

①平成26年度に一貫教育学校への取り組みがスタートしたが、当時の人口構造と出生数など、どのような見通しの中で進められることになったのか伺う。

②札幌圏域のベッタウンとして人口増加が見込まれているが、ハード面の学校規模と就学児童数の将来見通しはどうか伺う。

③大崎市立「大崎西小中学校」が同時期開校した。複数の小学校から一つの中学校に入る地域構造の中でスタートしたが、当別町では小・中学校各1校が一貫校の対象となった。一貫校とする理由が大崎市とは違っていると感じるが、開校準備の苦労はどのように総括されているか伺う。

④すでに開校から3ヵ月が過ぎようとしている。当初の予定と実際の開校後の状況で大きく齟齬のある部分はあるのか伺う。

説明と取り組みの概要・とうべつ学園を視察

※①当別町の義務教育学校開校は、人口減少による子供の数の減少が多きな理由ではなく、小・中一貫教育を目指すことによる教育環境の整備と教育の質を高めることを目指している。

※②札幌市の近郊に位置していることから、人口構造は横ばい傾向にあり、こうい環境の質を高めることによる、他の地域との差別化の誘導を図っていく。

※③義務教育学校は2校あり、当別地区にあるとうべつ学園は施設一体型の学校で、1年生から9年生まで同一の校舎で(新築)学んでいる。

また、西当別地区にある西当別小・中学校は施設併設型で、2校に分かれているがカリキュラム等は統一されている。

※③当別町では、Wスタンダード型(一体型と併設型共通)の取り組みで、1自治体内に

	2つの義務教育学校を運営することによる相互の課題の抽出や相乗効果など他の自治体ではできない取り組みを実践している。 今回の研修に参加し、人口減少化対策の間口の広さと奥の深さを改めて認識する良い機会になりました。 以上、会派の行政報告と致します。
他会派との合同実施	・☐無 ・有（会派名： ）

会 派 研 修 報 告 書

大崎市議会 政務活動概要報告書

令和6年2月26日 提出

1. 研修概要

会 派 名	大志会
参加者名	相澤久義・富田文志
日 時	令和6年2月16日(金)(1日間)
研 修 先	白石市福岡長袋字八斗蔭 38-1 こじゅうろうキッズランド
出 席 者	(1)こじゅうろうキッズランド施設長 たかはし あきら 氏 他 施設スタッフ

2. 研修内容

研修項目	研修目的 (1) 多世代交流施設(こじゅうろうキッズランド)の概要について
研修項目	(1) 多世代交流施設(こじゅうろうキッズランド)の概要について ①こじゅうろうキッズランドの利用は小学6年生までの子どもが対象ですが、主に就学前の小さい子どもが家族と一緒に楽しく遊べる施設として、公設民営の指定管理施設として運営されています。 運営はNPOみやぎ・せんだいこどもの丘が担っており、現在の施設長は「秘伝ラーメン体操」でおなじみの「あきらちゃん」(たかはしあきら氏)です。 施設は2階建てで、屋内遊技場は小さい子供が遊びまわるのには十分な広さがあり、運営に当たるスタッフの皆さんは子供さんたちとのかかわりを大切にして、遊びから生み出される交流を大切に運営されていることが窺えました。 ②運営経費は施設の指定管理料と一人300円の利用料金になります。決して十分な指定管理料とは言えず、「ラーメン体操」を中心にミニコンサートを開催し収入増につなげています。 天気の心配をすることなく遊べる施設で、貸し切りのスペースではお弁当も食べられるので、団体割引の制度もあり園児等団体での利用も推奨しています。 駐車場は隣接する地場産品直売所の駐車場も利用できる所以大型バスにも対応できるそうです。 以上、会派の行政報告と致します。
他会派との合同実施	・ ☒ 無 ・有 (会派名:)